

## 第2学年音楽科学習指導案

日時 平成28年11月16日(金)14:00~14:50

場所 北舎3階 音楽室

授業者 大坪 明子

### 1 題材「響きの美しさを味わおう」について

本題材は、諸外国の様々な合唱の特徴から音楽の多様性を理解して、アカペラによる響きの美しさを味わい、表現を工夫して歌ったり、和音の移り変わりを感じ取ってイメージにあった音のつながり方を考えて旋律をつくったりする。このような学習活動を行うことで、音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する力を高めていくことをねらいとしている。

学習を進めるにあたっては次の点に留意し、生徒の関心意欲を引き出し、思考・判断力の育成を図る。

- ・既習曲で「旋律の上行・下行、動き方の違い」に焦点を当ててそれぞれの特徴を感受し、旋律の音の動きに対するイメージをもたせる。
- ・様々な旋律の動きを試したり提示したりすることで、個々のイメージに近づくような旋律づくりができるようにする。

こうした学習活動により、音楽の楽しさを実感するだけでなく、曲想と音楽の構造の関わりを捉え、思いや意図をもって表現活動ができる生徒を育てたい。

### 2 生徒の実態

聴いた音楽に対してどんな特徴があるかを、音楽の要素を根拠に話せる生徒が増えてきた。しかし内向的な生徒が多く、全体合唱ではある程度歌唱表現できるが個人となると表現力に弱さが見られる。本教材では個人で旋律づくりをし、自分の生み出した音楽に自信をもてるような評価活動を設け、個人の表現意欲の向上をねらいたい。

レディネステストの結果から、音楽づくりはおもしろそうと答えた生徒と、難しそうと答えた生徒が半々で、両方に回答した生徒も多かった。理由としては「オリジナルのものが作れるのが楽しそう。」というものが多く反面、「思いつかなさそう。」「リズムも音程も分からないからどうしたら音楽が作れるのか分からない。」という回答が多かった。また、基本的な音価が理解できているかという問題の完答率は47%だった。

従って、記譜はおろか、音程やリズムの工夫は十分な手立てが必要であると予想される。また、これまで「旋律の音の動き」についての学習が少なく、音の動きとその特質に対する思考・判断力が弱いと考えられる。

### 3 研究内容と本時との関連

#### (1) 研究内容 について

旋律づくりをする際に、根拠をもって自分の旋律や相手の旋律のよさを感じ取れるようにするために、次のような双方向の言語活動を仕組む。

思いや意図をもって選ぶ音を工夫している仲間の旋律を聴き、どのような特徴・よさがあるかを「音の動き」を根拠に語らせる。自分がどのような工夫をしたかを語る時に、誰の旋律づくりにヒントをもらったかななどを語れる生徒が生まれるように「

さんはどんな工夫をしていたかな。」「どうしてそのように旋律を変えたの。」と問い返す。

#### (2) 研究内容 について

授業の導入とまとめに相互評価をし、1時間の変化を感じられる活動を設ける。その際に、どのような思いで変えたのかを伝えたり、それによりどんな感じがしたかを教えてもらったり、と言葉で表せるようにすることで、1時間の学びを明らかにすると同時に、自己肯定感の向上を図る。

### 4 人権教育の観点から

- ・自分の旋律と仲間の旋律とを比べて、それぞれのよさを感じ取ることができるようにする。(認識力)
- ・イメージに合った旋律づくりを楽しみ、自分の旋律の特徴や相手の旋律のよさなどを感じることで、音楽活動のよさの共感的理解ができるようにする。(自己啓発力)
- ・導入とまとめに相互評価をすることで互いに1時間の変化を認め合い、自己の伸びを価値付ける。(自己肯定感)

5 題材指導計画（全5時間）

**現在の様子【共通事項】**

- ・自分の音を聴いて歌うだけで精一杯で「全体の響き」は考えたことがないなあ。
- ・ア カペラって「伴奏がなくて声だけで歌っている」ということだよ。

【旋律 テクスチャ 音色】

アカペラの合唱曲	<p>諸外国の様々な合唱の特徴から音楽の多様性を理解してア カペラによる響きの美しさを味わうことができる。 (関・鑑)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声だけなのに、ハーモニーや声の音色に違いでこんなに様々なア カペラがあるなんてすごい。</li> <li>・世界には様々な合唱があって、それぞれ特徴があっておもしろい。自分はこの国のア カペラの、こんなところが好きだな。</li> </ul> <p>【テクスチャ 音色 旋律】</p>
----------	--

Kum ba Yah	<p>ア カペラによる響きの美しさを味わいながら表現を工夫して合唱することができる。 (感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分もこの響きの中の一員になっているのって気持ちがいいな。きれいだな。</li> <li>・声の音色を合わせて美しい響きの合唱がしたい。</li> </ul> <p>【テクスチャ 音色】</p> <p>人権問題について：奴隷たちが救いを求めて歌ったゴスペルソングであることにふれる。</p>
------------	--

旋律をつくる	<p>和音の移り変わりを感じ取って、それらを生かし音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組むことができる (関)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真ん中に向けて音が下がっていくから落ち着いていく感じだけど、最後は音が高くなって盛り上がるようだ。だけど、続く感じではなく終わる感じがするなあ。</li> <li>・明るい和音に合わせて、なめらかな旋律をつくりたいな。</li> </ul> <p>【旋律 テクスチャ】</p>
--------	--

旋律をつくる	<p>様々な旋律の音の動き確かめることを通して、音の動き方の工夫によりイメージが変わってくることを感じ取り、どのようにして自分のイメージに合った旋律を作るかについて思いや意図をもっている。 (創)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なめらかな旋律にしたいから、でこぼこがないように音を変えよう。</li> <li>・最後音が高くなると、盛り上がって終わる感じがするな。自分もそうしてみよう。</li> </ul> <p>【旋律】 (本時)</p>
--------	--

旋律をつくる	<p>自分のイメージに合った旋律になるような音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて旋律をつくっている。 (技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のイメージに合った旋律がくれたぞ。</li> <li>・和音の上に自分のつくった旋律が重なってすごくきれいだな。</li> </ul> <p>【旋律】</p>
--------	---

**本題材出口の様子【共通事項】**

- ・全体の響きを聴きながら歌うと気持ちがいいな。和音の響きって美しいな。
- ・声1つでもこんな様々な響きがあるんだ。おもしろいな。じゃあこれからの合唱曲でも自分たちはどんな響きで歌ったらいいかを考えていきたいな。
- ・自分たちが歌っている合唱曲も和音に移り変わっていく中に旋律がつくられているんだな。

【旋律 テクスチャ 音色】

## 6 本時の目標

様々な旋律の音の動き確かめることを通して、音の動き方の工夫によりイメージが変わってくるを感じ取り、どのようにして自分のイメージに合った旋律を作るかについて思いや意図をもっている。

## 7 本時の展開 ( 4 / 5 )

段階	学習活動	留意点 双方向 人権教育の観点
つかむ	<p>1 前時に作った旋律と、本時どんなイメージの旋律にしたいかをペアで発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと滑らかな感じの旋律にしたいと思っています。</li> <li>・盛り上がりがある、動きのある旋律にしたいな。</li> </ul> <p>2 2種類の旋律を聴き、どんな感じがするか感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動きがある方が、楽しい感じがする。</li> <li>・高い音があると盛り上がる感じがする。</li> </ul> <p>3 課題を設定する</p> <p>自分のイメージに近づくような音の動きを見つけて旋律を作ろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返りに書いた「自分の作りたい旋律のイメージ」をもとに1人1人が願いを語れるようにする。</li> <li>・学習活動1, 5のペアは隣の班とのペアにし、導入と終末のみを聴き合って評価ができるようにする。</li> <li>・「音の動き」についてのマグネットを掲示しておき、音楽の要素を根拠に旋律の特徴を語れるようにする。 例：上行・下行・なめらか・高低が激しい</li> </ul>
深める	<p>4 様々な音のつながり方を試しながら旋律をつくる。</p> <p>5 班内で途中経過を発表し合い、相手にどのような印象を与える旋律になっているか話し合う。</p> <p>「私の旋律、どうだろう・・・。」</p> <p>「この部分が音の動きが激しくて元気な感じがするね。」</p> <p>「もっと盛り上がりほしいんだけどどうしたらいいかな。」</p> <p>「盛り上がりを作るには音の動きをどうしたらいいかなあ。」</p> <p>「この部分の音を高い音に変えてみたらいいんじゃないかな。」</p> <p>6 話し合ったことをもとに自分の思いや意図に合っているかを試しながら旋律を完成させる。</p> <p>「さんが言っていたようにここを変えてみようかな。」</p> <p>「ここを変えてみたんだけどどうかな。」</p> <p>「この部分は○さんみたいにだんだん音を低くしてみようかな。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントは何種類も作れるようなものを準備し、どのように変化させたのかという思いや意図の足跡が残るようにする。 「どうしたらいいだろう。」「もっとにしたい。」「さんのここがいいね。」という生徒の言葉が出てきたら拾い上げて全体に投げかけて双方向の表現活動を仕組み、根拠をもって互いの旋律に対する思いを語らせる。</li> </ul> <p>イメージに合った旋律づくりを楽しむ中で、自分の旋律の特徴や相手の旋律のよさなどを感じ、音楽の多様性を理解したり、音楽活動のよさの共感的理解をしたりする。 (認識力) (自己啓発力)</p> <p>音の動きを最初と変えている部分を見つけ出し、「どうしてそのように変えたの。」「誰のアドバイスで変えたの。誰の旋律を聴いてアイデアが浮かんだの。」と尋ね、双方向の表現活動の中でどのように自分のイメージに近づけたのかや相手のアドバイスを大切にしていることなどを価値づける。</p>
まとめる	<p>7 ペアで旋律を発表し合い、本時の振り返りをする。</p> <p>さんのアドバイスをもとにして、音をどんどん高くしていくことで盛り上がりがある旋律にしました。</p> <p>さんの旋律を聴いて、私も音に動きがある方がいいなと思ったので、高い音と低い音を交互に入れることで、元気な感じのする旋律をつくりました。</p> <p>8 「和音と低音」に合わせて抽出生徒の旋律を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんな風に仕上がるんだ！次回自分の旋律も和音に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間の学びが確認できるよう、学習活動1で演奏した旋律と、できあがった旋律を発表し合う。</li> </ul> <p>本時の最初とどのようにイメージが変わったかを伝えあい、1時間の学びを実感できるようにする。</p> <p>誰のアドバイスによって旋律を工夫できたかも書けるワークシートを準備し、双方向の表現活動の中で「できた」に近づけたことを価値付ける。 (自己肯定感)</p>

	合わせて演奏できるのが楽しみだ！	
--	------------------	--